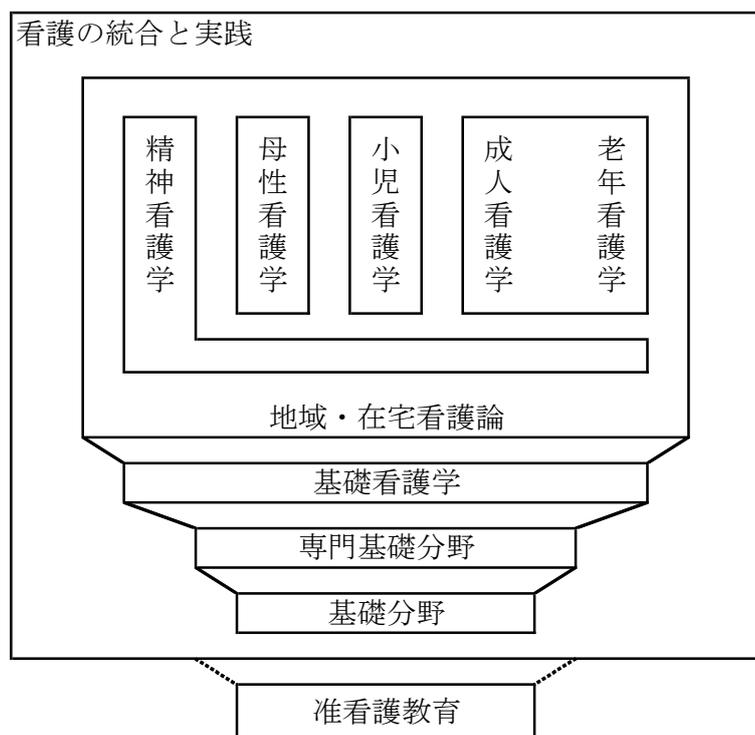


教育課程における分野の位置づけと構造



※ 2年課程の教育は、准看護教育を基に知識・技術をさらに深め、物事を系統立てて理解し、判断能力、問題解決能力を獲得するために積み上げていく教育である。本校の各分野の位置づけと構造を以下に説明する。

基礎分野

専門的能力を習得するための幅広い知識を養う人間理解の基礎として位置づけている。

その内容として、看護の対象である人間と人間の生活を理解し、人間関係のあり方を身につける。更に、科学的思考、表現する能力を養い、看護に必要な行動を行うための基礎的判断、応用、問題解決能力を身につける土台とする。

専門基礎分野

環境の一部として存在する人間を理解するため、また看護学に必要な社会保障制度や法規を学ぶための専門的知識として位置づけている。

その内容として、保健医療福祉における倫理に基づく看護の役割、機能を認識する。また、人体の発生・構造・機能を理解し、看護の対象である人間の健康、疾病に関する観察力、判断力を養うための根拠とする。

専門分野

基礎看護学はすべての分野の導入であり、土台となる看護の概念や役割、看護実践の基礎となる看護技術及び問題解決の方法を学ぶものとして位置づけている。

その内容として、看護の対象としての生活機能をもつ人間を理解し、コミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化する。

地域・在宅看護論は基礎看護学とともに土台となり、対象の暮らしを理解し、支えるための学習の上に、各領域の看護学を包括する概念をもって位置づけている。

精神看護学は対象を人格・感情をもち、尊厳ある存在として理解し、疾患をもちながら生活している対象との相互関係を学び、各領域に発展する。

母性看護学・小児看護学・成人看護学・老年看護学では領域を横断して対象の発達段階と疾病に応じた看護を体系化し学ぶことで、専門職として必要な基礎的能力を身につけるための学習として位置づけている。人間の一生を通じ、健康の保持増進、疾病の予防に関わる領域である。

看護の統合と実践は基礎分野から専門分野で学習した内容を実践で活用するため、多様な看護の場において、知識・技術を統合させ、看護を提供する方法を学ぶものとして位置づけている。

各分野を体系的に学習することで看護に必要な技術を身につけることができ、調和のとれた人間形成を目指していけるものと考えている。